

# 大和名所圖會

吉野郡

六坤

和書門			
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊

庫	文	閣	内
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊
二九〇二	函	架	冊

内閣文庫	
番號	和 29002
冊數	7 ( 7 )
函號	172 205

内閣文庫

共七



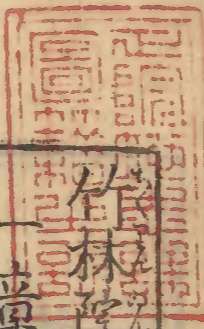
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





林院 晴の社より柳南子社八重剛を子社 當院より頼朝卿乃御教書

一章 義経追討の 射御新流の一卷あり 院内秘藏の内射御乃

米田多門系 名譽あり吉見和依

榎公椿之寺 釋書白目藏上人修りの地之は上人と系師乃人より

か断く延喜十六年三月より六年の精修に経らるる其時母君乃

中ひのありたかかのかのこけりて故郷より東寺より密教に学ば

布引柳 けをよりりたる 布引の橋とて根より谷のまをさくさく

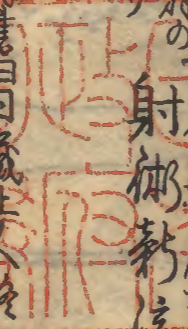
布引小川とて芳野の谷小川よりたの一一は 花井井車

大皇橋 大皇櫻 梵天社 榎川坂

雨師模観老堂 五中ざりたれ けにみゆささめひに

十里丹生の川上経ちいのかを晴よみ月雨乃之 後醍醐天皇

けより一里より川下小冊生柳の社あり 観老堂なる西の谷に榎柳と井橋といふあり





龍櫻 雲井櫻 龍櫻は谷より小川に也  
雲井櫻は小川にあり

日 いかにあつたその龍櫻花の枝はみよきと云ふ大徳寺

龍櫻 雲井櫻は小川にあり

け公兵衛義経身は隠されし跡は小川にありと云ふ龍王がま

ゆる所へ又忠信ゆせたる射たる花久倉といふはけ所

鷲尾と世尊寺 獅子尾坂のうらふあり田原の後  
形よりうらうの堂あり

阿難迦葉と拵けをそふ欽明帝十四年河内國京師茅渚海

仲小梵音といひさき雷聲ふたぐへく光緒をさく日満ふ

あざむく仲春ふなる帝あやみく満色直小勅しと云ふ

しむら直尋海ふ入るんは樟木のひかりふせありける足

とらりくむりしと佛ふふ令しと併二鯨は化すと云ふ

今の吉野ち乃樟木の佛像足之 日本は像のそりりり

釋まる小川くとり古鐘あり銘曰保延六年十二月播磨守平朝臣

忠盛 えけ所と靈鷲とふひく

辰の尻 花久倉の  
人磨塚 傍小あり

子守神祠大宮之座 後若同跡しとて若野大井祠の其一と田原の後豊長秀頼公の  
再建社檀越繁しとてお教の若野若野永徳の若と

吹く みよりのこのゆきと云ふはひとてまの宮れたと云ふ

牛頭天王神祠 若野大井祠の  
其一あり

高峯上人遺像堂 毎年二月一日の祀  
供職法とけ上人の

高城 俗小城といふ大塔宮と小塔とせり人とのや佐藤忠信  
虚懐はふりしといひ人ける

拾玉 一と芳野のち城はふ白きいれたをゆりてふひとて人の釈道親  
ちれたゆれた谷をせむとてあはれ人の若依せは 若依

高城 俗小城といふ大塔宮と小塔とせり人とのや佐藤忠信  
虚懐はふりしといひ人ける

拾玉 一と芳野のち城はふ白きいれたをゆりてふひとて人の釈道親  
ちれたゆれた谷をせむとてあはれ人の若依せは 若依

高城 俗小城といふ大塔宮と小塔とせり人とのや佐藤忠信  
虚懐はふりしといひ人ける

躰躰固 遙谷

はトウ家々々々々々々々々々々々

お小あんと吉野のたもとふ井のつー園の色ふとれて 大納言兼章

むりれぬるやうふんふんふん

さねよりかんざんるるの谷はたもたふとるふりのこと 全

岩倉谷 相対する極多

金精大明神社 林名張曰金峯神社吉野との地主神とて金御高の號

高とみ 金峯寺の鎮守とて

金御山嶽 吉野との一名ありてこの峯と神とをいふなり

拾叢抄曰金峯寺の黄金あり意尊お世の時岡浮提の地ふのへ

あんとく藏王権現のはりせあんとく釋書曰聖武帝の時時とて

傍正けし金の得ん中を金剛藏王ふりけりて林あり給りて

経小金嶽くと文字ありて一の字は拾叢抄ふりて

夫木 神のすけらるるは孝とのやとて

蹴ぬけれ塔は塔を花塔の道に建しとて義経は塔の内小塔れ

飯高の安禪寺寶塔院本尊と一丈の藏王権現又後仍者の遺像

か安禪寺り奥院四方面面堂 奥ふあり 秘佛堂あり

其後小藏王堂あり

青根我峯 安禪寺のふありて下小塔を谷にりて義経とて

一井川いそむの岐ふりてや青根が峯ふ清なるを 教政

佐保那のけし新と奥の青根が峯ふけ若乃むりて 公実

強川太舟

強川太舟

強川太舟

強川太舟

強川太舟

強川太舟

強川太舟

強川太舟



苔法師の

あり法師の教室あり正面堂より西の小あり堂の邊より後あり  
苔法師のありとて入道家よありの  
通縁ありは法師のわきまあり

動しては向をよびて蒼苔巖を封してを冷を滴して幽  
邃閑寂ありて遙小塵寰を隔川堂をあり上人とせしめ乃  
早霜にそそに歴経入真小香爐岩小結び一樂天が草室

と家集  
はくともうやむひ金あり我小をさるるの井乃ありあり上人

吉野紀り  
花よりを思ひまれば若れさやうとていひさるの糸  
推章

伯船集  
花よりを思ひまれば若れさやうとていひさるの糸  
推章

西上人のまればいかりのありとて奥の院  
より右の方二町ありありは入程衆人の  
うへへ道ののみありはさうさうさうした  
谷のなるをさうはいとありとて一は  
ゆりゆり乃法師ありとてむり  
ゆりゆり乃法師ありとてむり  
木葉のあり

礎ありとていれ小とせよや坊の妻

とてい

露ありとていれ小とせよや坊の妻

とてい

凍ありとていれ小とせよや坊の妻

とてい

苔法師ありとていれ小とせよや坊の妻

湘夕

枯吟瀑布

ありありけ瀧と岷々あり岩向より張落は凡八十

をろあり瀧の

ありありけ岩の向小淵ありけ岩のめぐりあり枯吟乃小新と

いみちあり

ありありけ岩の向小淵ありけ岩のめぐりあり枯吟乃小新と  
清明が枯とていれ

うらぐべし... 琵琶... 紀別懸... 名所の者... 川と紀別懸... 義經記曰... 義經記曰... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸...

川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸...

川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸...

川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸... 川と紀別懸...

狭猪... 待也... 我立... 竹原... 未也... 此末... 未也... 此末... 未也... 此末... 未也... 此末...

そのおぬ... 其靴... 蛸... 蠶... 昆虫... 大君也... 大和也... 秋津島... 大和也... 秋津島... 大和也... 秋津島... 大和也...

續十載... 著者集... 或曰... 或曰... 或曰... 或曰... 或曰... 或曰... 或曰... 或曰... 或曰... 或曰...

無名川... 無名川... 無名川... 無名川... 無名川... 無名川... 無名川... 無名川... 無名川... 無名川...

冠... 冠... 冠... 冠... 冠... 冠... 冠... 冠... 冠... 冠...





新渡拾遺

いらねむの  
秋はふ

かたむね

かびさし

あはれ

うね名

まろん

乃木法師

大瀧 名も大瀧と云り頭住密勘曰ふ所の大瀧の所とあり

急流 水物岩小觸く漲るはゆへのはののちとく

岩上 より流落するあはれを岩向に漲り沸くは災観あり

遠く より遠く眺むる賞とありふと人ば狩人とな

矢士 の矢上といふ計ちのたれありて

鏡山 獄のうらさるふかひ義経は川志の竹とささひむくの岩

大瀧 やゆるはあふ瀧うけはるわかくと小倉とく耶

龍泉寺 大瀧村小あり

吉孫皇居 日守紀曰神武天皇東征乃時

大瀧 の古跡あり

官軍 と相練ひ終る

矢 の宮とみゆさおけし

御影石 塩谷村小あり高一丈餘南帝王の祠と称す

琵琶山 高十五丈計は

井先宅址 磁村小あり由縁吉孫那の

南帝王 神製

大瀧 の古跡あり

急流 の古跡あり

岩上 の古跡あり

遠く の古跡あり

矢士 の古跡あり

鏡山 の古跡あり

釋迦岩窟

和田村小あり

國見山

狗母谷村の西南小あり巖窟深一丈餘深一丈餘西南に總て峯中と云ふ

笹岩室

國見の山腹に所を日藏上人のこりたひし所を日藏上人

雀院の沖子あり

威衰 深道の後吉所と椿と寺小後一後と云ふ

窟小入を言断念

記 眞士小ありしに藏王菩薩金家との浮七

と云ふ人の志のまゝに日藏九年月王護の短札に云ふ

菅神小はるくなりく心の短札八字の註釈と云は道賢の四々

あつて日藏と我名と云ふと又地獄と巡りて各々云ふ小鐵窟

小人ありて日我と云ふと大日本國主金剛覺大王の子あり菅丞相

配流のうらみへく佛寺に焼有候公害せり其重罪我身

うけりゆりゆりし汝本國小塚を二万の衆都築んはけり供

養て我若患んたよけりゆりの宣下からけりて又都築内院を言ふ

くら聖子の好樂か云く威衰 記 捨小十百公孫く授けし其後彼都築

内院の樂か和朝小はく見佛圖法樂と云は一説云く樂々中華より

日藏上人岩窟小籠りて四五百歳を居たりける鬼神あり

多量億劫のくらみせのくれさせると願ひしと字拾巻小云く

寂奠の言れ岩戸の志門々れ小涙乃雨のくく日我をた日藏上人

金の大岩のせれ窟糸の房を何處たりと云ふなり岩窟を村にぬとあり 修正仍る

大岩と云りゆりて時せれ岩窟といふ

千載 窟と云る岩窟の麻れ昔遊く夜小流ぬいそ我移るもね

王龍大修正 斗雨小神の志はるんを岩窟のむりさひつ

風雅 普賢圖入道 花園白元大長 斗雨小神の志はるんを岩窟のむりさひつ

彩後拾巻 靜仁法親王 斗雨小神の志はるんを岩窟のむりさひつ

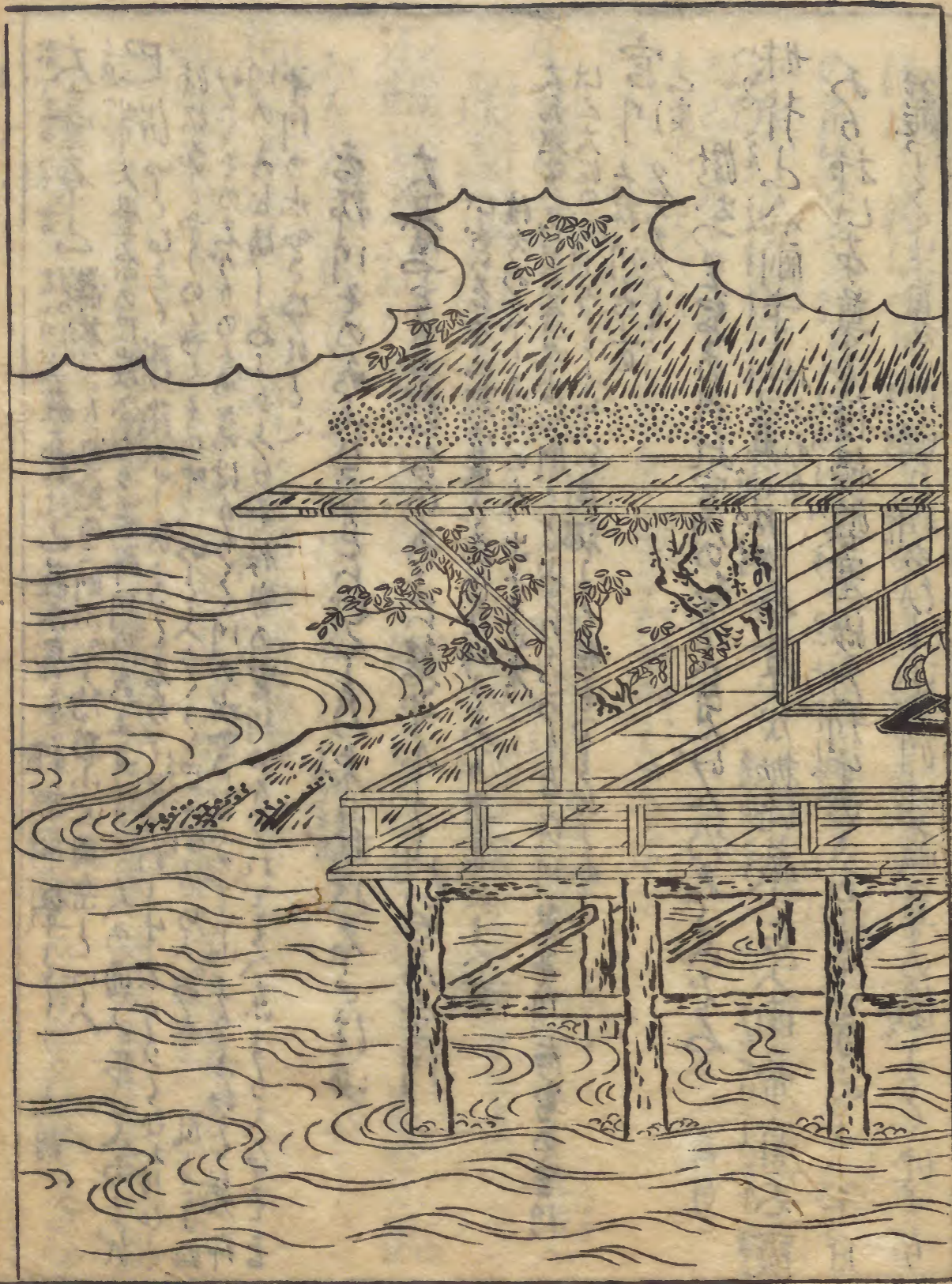
山家集 龍大修正 良榮 斗雨小神の志はるんを岩窟のむりさひつ

今宵こそ我を憂もあつらん地て嵐の素かそ我小づのれ あり

朝日岩窟

鷲岩窟

共小國凡の山腹



清江春香製

そふん

後

御

ら

かうり

の

み

の

み

の

の

の

の

の

大臺原北河上莊あり北と莊小属を辨岳嶺嶺一と樹

巴大臺原の巴嶽あり若孫川のあ上より人の通入あり

若孫川そのあ上なるむら乃末枝は若孫川

大臺原そのあ上なるむら乃末枝は若孫川

大和巡遊記曰大臺原小巴嶽あり若孫川

宮川若孫川の上の

妹背川上莊神孫谷

あり北河上莊あり北と莊小属を辨岳嶺嶺一と樹

籠生身の薩壇の祈あり小川地蔵尊の像

涌出利益あり下やと地蔵尊の堂あり

不動岩窟柏木村あり窟の口窄隘して偈入る

柏木坐神洞柏木村あり十二社権現と称す

國栖以上七村國栖莊と稱す

國栖淨を奏と足は若孫の國標人の

小若孫宮小若孫あり一昨夜酒なむら

元日節會二秋

大和巡遊記曰大臺原小巴嶽あり若孫川

宮川若孫川の上の

妹背川上莊神孫谷

あり北河上莊あり北と莊小属を辨岳嶺嶺一と樹

籠生身の薩壇の祈あり小川地蔵尊の像

涌出利益あり下やと地蔵尊の堂あり

不動岩窟柏木村あり窟の口窄隘して偈入る

柏木坐神洞柏木村あり十二社権現と称す

國栖以上七村國栖莊と稱す

たるけいごど人の慕ふかたて喰ふ又飯懐か着ふ名をば毛跡とさる  
けく賞味ありとて喰けるとかき若孫のほ土ふわく嶺ありと  
谷深うりける所をば谷路とくゆるぬ小常小末朝するものや  
とらん中ける其後常小常と年魚中ものものが款ける空のや  
今の國栖の奉とて奇かぬひはなつかれるものと若孫より  
年始くまるとく心ざり云々又延喜内式の部より

源平盛衰記曰吉孫國栖と云舞人より國栖への姓より清刀宗の  
天皇大伴王子小龍と云吉孫の奥小籠に岩屋の中ふ志のひ清刀  
は小國栖の若栗の御料小ウグヒといふ魚と具へて供御供儀なり  
朕帝位小上らば若と供御と云石とんと論言ありける後大伴王子  
小誅御位小尋ねと云石とより味末元日の清統もて國栖乃  
公孫若と相竹小鳳凰の装束な若と云若の明れ五節より  
は若若と粟の御料小ウグヒの魚と持参して清祝小進は殿上

より國栖と云若の時の聲より清若か中さば清若かゆと系はへ  
は若の若と中より五節始りるものなり

吉孫記曰大勝より國栖二里あり清刀宗天皇は新へ造さるるありし乃  
若船の船は若船一人小供所の所なりあるべし小下りたりしは清刀小若  
は清刀代より出れば魚とさるる事と云ふ事とんり若人小中より若と云  
その中より若人小若と云ふ代小出さるる若人定か國栖の事と云ふ事  
今小末くすく清正といふ事

吉孫記國栖といふ大肉の若今小若か中人のけ新よりむり

ちりちりと吹かかある國栖の清刀は若たか今さうりあり 大納言 雅章

御垣原 清刀原天皇は御垣原と云名新ありといふ事

新垣原 西いささ小若れやへは海抄曰清垣原と名新さるるねとも清垣小

新垣原 古里の刀壇が系れは若と系んといひ若の清垣原系し若菜括てん

新垣原 今より若菜括てなけつ清垣原系し若と若りは

新垣原 若の中も若菜括りるること清垣原若菜若の急



倭後拾遺

白鳥の神々

若まつむ

御揃

糸の

梅

その花

定家

耳我嶺

窪坂村の上方小あり山勢盤紆りし出勝の地一説小若那

万葉

二空の所の耳我嶺小対しを若那よりけりひまをを雨ふりたる

加茂真淵曰御岳嶺て人意なりん人小けのくをたれたる壺外畧所製  
しん御金高とを徳りん保氏お倍小所けけさうト入今昔抄出  
りも黄金の多さふか書を皇朝のむりゆゆ金のあつたごりし時小  
こづのともく名つけんおんはる後人ゆりかありひきりしあこら  
迎に大和國のりまをるもの小耳我嶺は金峯の外にあり世  
しく考へざりし熱し地理のりまいみかたよく考へて  
金の埋るく弥勒の出世を傳しりゆと例の處とけ中し

國栖

南國極村の上方小あり峯巒疊嶽ありし四時

小牟漏岳

小村の上方小あり昔峯高く聳へ巖は

丹生神祠

小村あり小川莊七村の

象山

喜佐谷村上方小あり八雲所お曰象山象中とくもり入りし

新撰

はとふて後杜風が舞るぬははは乃中しや不順地院

ま本

大和後小然と道は後小り象の中しや不順地院

象小川

八雲所お曰象山象中とくもり入りし

ま本

むのうみこのの川が今もいしきさく成小はる家持

假寝橋

一名外象橋

ま本

橋の名かたけうと縁はう人のゆくを常うつかのふ

櫻木神祠

喜佐谷村

ま本

老孫記曰櫻木の宮は宮籠のやうな小入るく花のうと

雙箕川

若那川葉橋村小至ツク

万葉

若那川葉橋村小至ツク

後古今

文りへうのふかうとけさる友箕の川は秋の夜乃月

新撰

ふつふ河川若那とて夜小と法をく時そかく形

後千載

とくけやふこの川小鴨のよが風下波を氷と傳

院所製

院所製

定房

定房



吉魚張 吉野山記曰其嶺里小龍水の多とく名水あり

吉魚張 吉野山記曰其嶺里小龍水の多とく名水あり

我宿の清茅をく吉魚張の夏笠の上小舟あり

吉魚張の夏笠の人の心かきとてきり月の影を 家持

御船 菜摘里の東南小あり外よりこれかかんとてやち龍の水

萬葉 龍のうらたに船より林はき小かきやち龍の噴喚子あり

新勅撰 みるは舟舟のふまき常小ありむと我をさく小人磨

新勅撰 龍のうらたに船より吹舟船のふら振ありける 正二位を氏

後撰 けは舟舟のふまき麻の音とふ上て鳴ぬ日影たきと 後撰の長

日 龍のうらたに船より月影か舟舟のふ秋風花吹 平海時

檜尾山 檜尾村上方小ありお郡を日暮とて

後撰 日くくこれとてく小舟をく其の末毎小ありてく 菅原家臣

日晩 中莊菜摘村

日くく一舟とてく小舟あり

新勅撰 亭子院宮嶺の清境一は舟佐ふつとてく

日くく一舟とてく小舟あり

川上鹿鹽神社 檜尾東川南國極之村の隈小あり今大新明神と

檜井坐神社 檜井村小ありま日宮と称に中莊七邑

宮隴 宮隴村小ありま日宮と称に中莊七邑

壁の心一流下九重淵小臨ん善水練る者石頭より小舟投

く流を不随く下流小出るは飛流とて人々を壯觀とて

代々の帝もくにりあり

菅家御記 昌泰元年十月廿五日宮嶺小とて遊べまをくらふ日たき

ふもまに其嶺のありさゆらぐりこに町をりたかくさうや縁とて

いさうくまに流をくさる小舟ありる者のかつてやばかぬの中れ新と

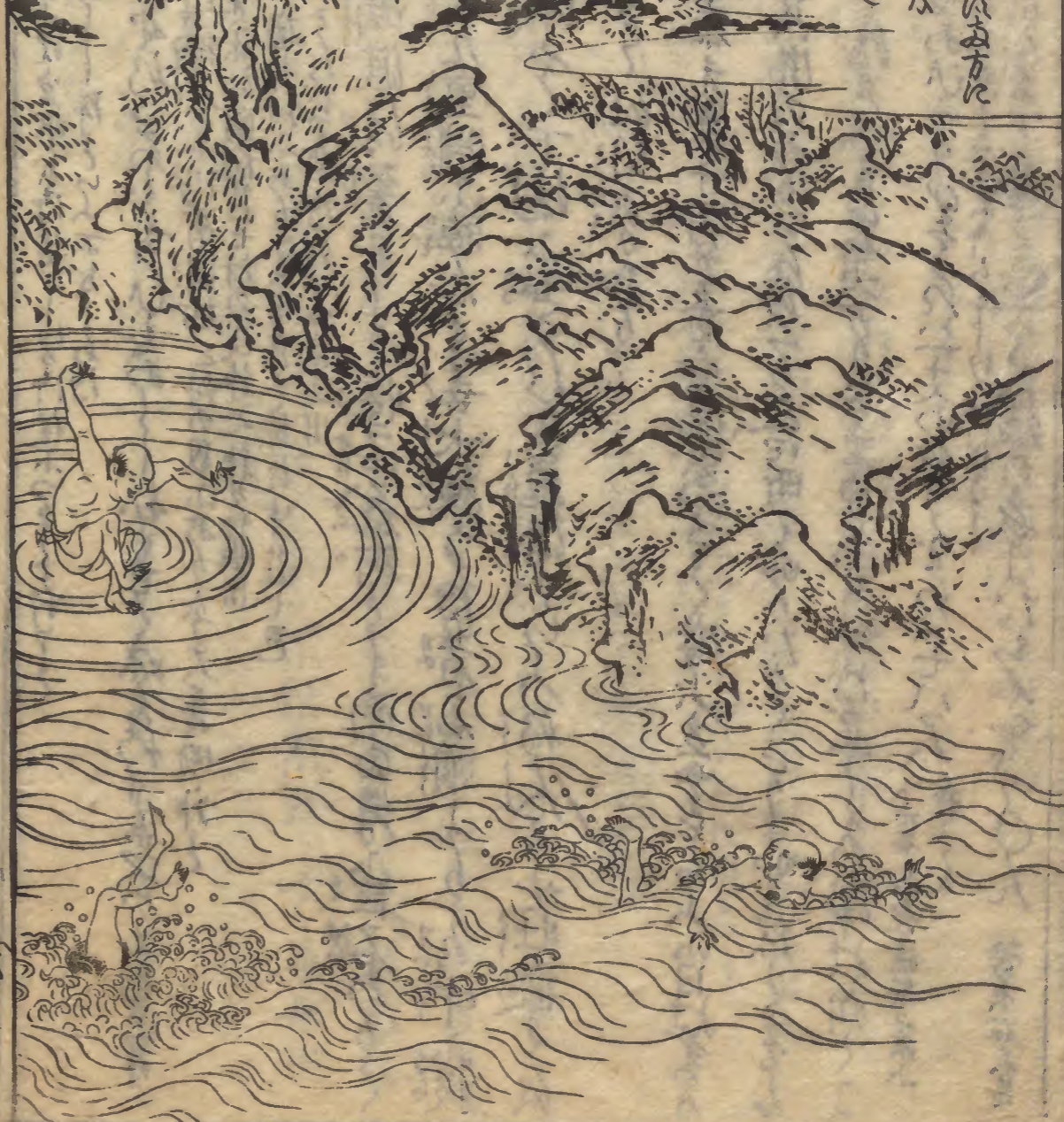
たねある名ありさるのまをたて一丈ありをたて七八人 下畧和合後撰集小

後撰 後皇宮の勝とてく小舟ありてく 菅原家臣

あひさの白糸とてく織るは娘の衣したるやとて人 菅原家臣

あひさの白糸とてく織るは娘の衣したるやとて人 菅原家臣

和州巡遊記曰  
 官遊ハ遊ニあハズ其方ニ  
 大岩あり其向ハ  
 古井川ニあハズ  
 大岩ハ大ウツリ岩  
 あり其方ニ  
 入り入り居ル  
 ときニ  
 大岩ノ内川ハ  
 廣クあり  
 せき石ニあハズ  
 大岩ニあハズ  
 せき石ニあハズ  
 深ク其景ハ  
 里人ニあハズ  
 岩ノ下ニ  
 水底ニあハズ  
 川下ニあハズ



中々小川を  
 渡りて  
 大岩あり  
 其方ニ  
 古井川  
 あり  
 大岩ハ  
 大ウツリ  
 岩あり  
 入り  
 入り  
 居ル  
 とき  
 ニ  
 大岩  
 ノ内  
 川ハ  
 廣ク  
 あり  
 せき  
 石ニ  
 あハズ  
 大岩  
 ニあ  
 ハズ  
 せき  
 石ニ  
 あハズ  
 深ク  
 其景  
 ハ  
 里人  
 ニあ  
 ハズ  
 岩ノ  
 下ニ  
 水底  
 ニあ  
 ハズ  
 川下  
 ニあ  
 ハズ



後撰

宮の跡ももたふもむくやけりあつ白波の玉とひけむ法皇御製

日

秋ふはるらん宮跡のたれ白泡よまらやとらん素耐法皇

續拾遺

宮跡の滝れもよるひんちたよゆら乃ゆわのありと

山家集

ゆかると宮跡川は波りもんの庭れとむ心地とるあり

新六帖

ゆその波のくは宮跡名物のわらるる人共かかれぬ乃家

懐風藻曰 萬丈崇巖削成秀千尋素濤逆折流

紀雄人

遊吉野川 欲訪鐘池越潭跡留連羨稻逢槎洲

友非干禄友實是食霞賓從歌臨水智長嘯樂山仁

藤原萬里

同 梁前招吟古峽上篲聲新琴樽猶未遊明月照河濱

清の原 宮跡のひらけ

くらくもきり日也去野川は原の原かんとあふくふ

千載 曉ふらりや志ぬらん月影のほろの原ふらりかきり 右大臣

新古今 ひとよの夜れをりを楸せる清の原りちりけくさり 赤人

篲橋 宮跡のふくし小築橋 樋口の原 清の原のひらけ

大河原辺 巡遊記曰宮跡よりひくふ大河を巻くしる名所あり

新古今 みるは大河舟をの古柳うけとそり久保喜々より 浦仁親王

籠御門 宮跡の秋の宮なる 玉水籠宮古 これ秋の宮なる

東の跡御門 このまらへもあつめいふか 舎人等

夫木 今か氷も解ぬ玉の跡の宮古とまらさめらん 光朝

籠浦 藤原朝曰宗祇法師の原よりとる

多藝津の原 新撰曰大和國

夫木 二草原の跡は河内のも風林林代もゆめをみかきり

草相

遊副川 去野川の舊名を伝言は曰ゆり川

夢回淵 御料莊新住村あり

神明井 下野村の路傍あり 大河原 下野村あり





安騎那 郡城下市二村のりあり 佐貴田日

東那 郡城下市二村のりあり 言塵集曰は東那の芳北の安騎の内より

東那の煙火 とらふ 月

秋那川 下市川より入る 魚

下市名産餅 餅の形状小加よりたふつ

願行寺 下市村小 立興寺 下市村小あり 彌陀の名號小及び終後

瀧上寺 岩城村秋那の川終れ 清水寺 産橋清水村

土田川 土田小至る 笠本川 笠本川

鳥栖 中

鳳閣寺 多任村小あり 境内に寶篋印塔あり 銘小曰正平二年二月建

舍瀧 黒瀬村小あり 常學寺 黒瀬村小

後村上帝皇居 傍小總福寺の故址あり

春日神祠 向加名生村小あり 後醍醐天皇都が遷させ

鎮國寺 向賀名生村小あり 後醍醐天皇

後醍醐天皇皇居 加名生莊和田村小あり 傍小華藏院の故址小古跡あり

丹生 丹生莊小あり 丹生瀧 丹生村小あり 丹生川 丹生川

丹生の水 丹生の川 丹生の水

丹生川上神社 丹生村小あり近隣野村の氏神なり 系神罔象女神なり

伊弉册尊河邊榎のくろふやうのくすねのひね其よりらんらん 紀 天武天皇白鳳

の同小土神植之形および水神罔象女なるも人 紀 天武天皇白鳳

の四元小入へたり又神武天皇の所宇小兒磯城とて賊ありけり

帝足元返落せんく半牧巖免とらり丹生の川上小のほりて

天神比社とていす門あり日本紀小入へたり

丹生寺 丹生村 檀岳 善徳寺 楠正の次細て我城あり人なり

白銀嶽 古田莊夜中村小あり銀嶽の南へり金嶽の山小あり

波實神社 銀の峯あり今神藏宮と称し古田莊

檜の迫川 丹生川小入

波比賣神社 檜村の西小あり今金嶽宮と称し境内小神まき

鷹巢山 立川波村小あり山嶺高くそい樹本概々く鷹の巢あり故小

立川渡坐神祠 立川渡村小あり今天王と称を 禪龍寺 立川渡村

乗鞍山 本谷村小あり 白瀑布 西井村小あり

隴山 天川莊和田村小あり 惣門瀑布 坪の内村小ありと樹青秀く

伊波多神社 和田村小あり今立和宮と称し

綿邑嶽 天川莊洞の南小あり

朝鮮嶽 綿邑嶽の西小ありと源お連く樹本茂く

天川 名水あり水保の上嶽より流しと洞川の北に流るる令に至り

龍泉寺 洞小あり山上の村人多くは後寺あり清泉あり

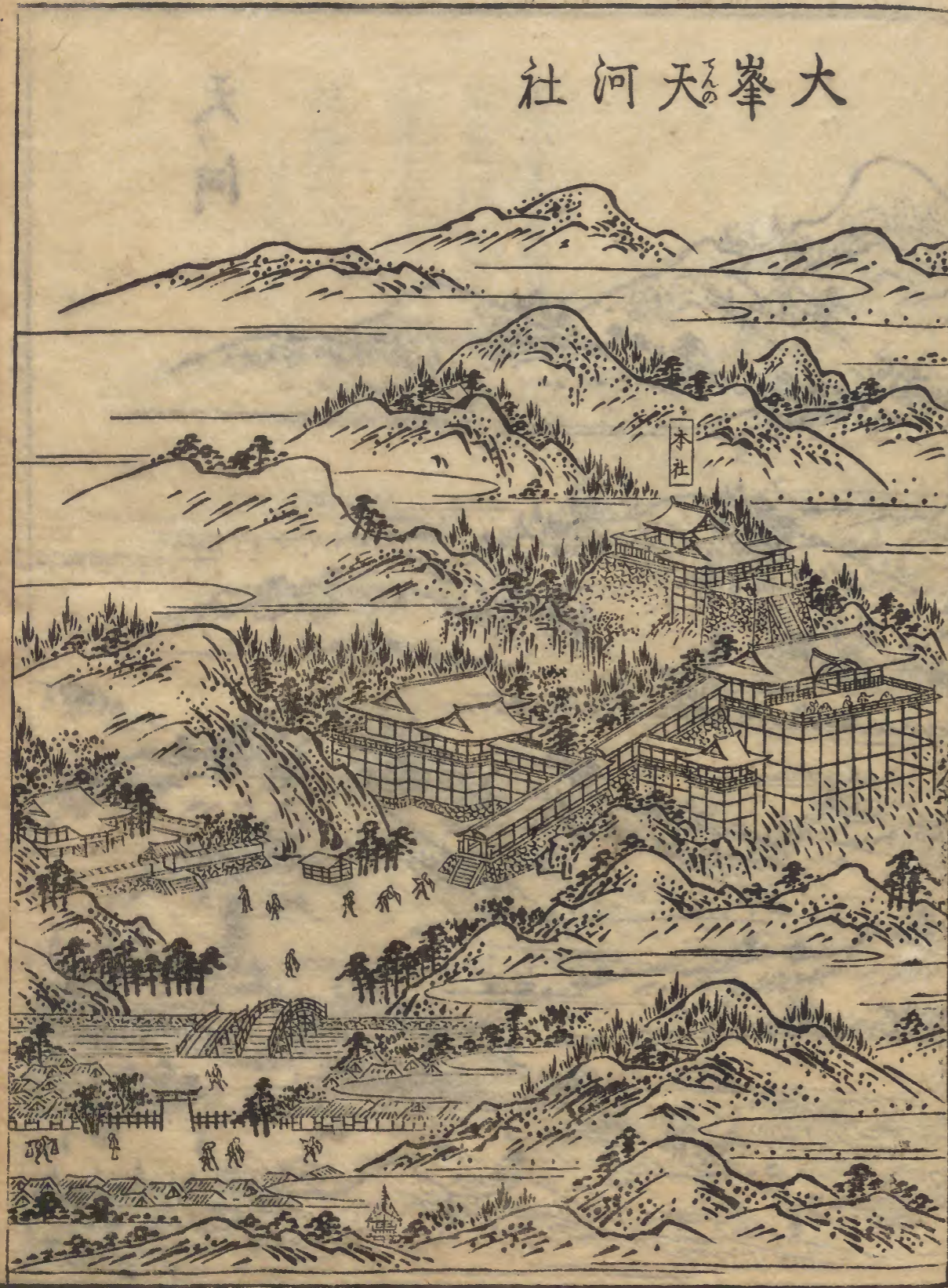
燈籠洞 洞小あり源を教百歩あり内より泉ありかうけく小池とあり

將軍塚 十二村莊北侯村小あり石塚十三あり左右に羅列に里人毎年十月

池津川 六日小祭祀とて或曰將軍陸良王の墓とて入

池津川 中津川に至る大俣川小入

大峯天河社







左原業平の別荘  
大の川は左原  
入定一之宮  
河海抄小  
又々々々

徳山

大津河川

天、河



法皇  
天  
河  
新坊

天聖

天聖

琵琶山白飯寺 琵琶坪内村 役行者大家の嶮路をひたつたを

先けしめしと靈驗を得しめし小岩窟小法泉つとかがと神靈

日光のややくと願ふ琵琶の響ありと人心の迷まかちし

より琵琶とと號せり其後弘法大師にまゝ十日のひほめを

多賊天女現しめし一くは其尊像の彫刻し神靈を鎮めたる

天川多賊天足之又宗像神祠と崇む天川莊二十一村

氏神と正殿并殿御厨所十二の小祠四箇の怪石と所の法泉

あり寺の妙者院と又號と觀音堂地藏堂藥師堂行者堂

護摩堂二重寶塔僧舎と宇 理性院神福寺 未迎院 あり又護良親王

寓居の所は御所坊といふ 別業 延院 又什寶蘇悉地經乃跋

書と僧正仁海之化疏一章は山門秀海派と其外正平年中乃

繪肯元中九年中勢卿の令旨あり

池津川神祠 池津川村小あり 文安元年の祭式あり 乾と 坂本村小あり 紀列の畏り

小壺山 池津川紫園二村の上方小あり一名金山又高と

荒神岳 北俣池津川二村の界小あり

四祈明神祠 十津川莊折立村小一座あり小糸村小一座あり

藥師堂 十二村莊堂平村 玉置川 名源玉置の山中よりかきく

玉置神祠 玉置小あり舊事紀曰紀伊國忌部遠祖千帆置負持あり

別玉置氏より僧坊四舎あり

行岡八布墓 十津川莊玉井川村の

七面山 御山の舟舟川莊藤原村の東小あり

玉置山 玉井川村北一里小あり家密森神あり

十津川 名水より天の川の下流しと諸村は往く

文本 一芳野のふれおと十津川の川は奈もわるとは世に公の

玉置内坐神社 西川谷十村の 氏神あり

國信

大塔宮

殿所兵衛宅  
十二村の莊屋村  
小あり大塔宮  
二品初まごの御所と  
くくくく徳おより  
藤させあひ十津川  
小津着あつはて  
竹系八所入道の  
甥小戸新去清  
といひの  
家にまゝ  
入せり入り  
太平記にまゝ



その末糸今の世も  
ありとぞはへ



高瀧 長三十二丈 十二瀧 七久村小あり急流飛瀧あり

中村坐神社 十津川莊中村小あり今王子権現と称す

小松山 十津川莊葛川の南小あり 行者高 小森村あり山巔郡との

湯系温泉 二所あり一所は十津川莊湯系村あり一所は同莊武藏村乃

東泉寺小あり俗に湯系と稱す別癒疾は治る湯系と類字名所

吹田の温泉と云ふは湯の湯の湯の湯

類字名所玉葉集 湯の系小崎芦川といふことと妹小と入石とたるとは 大和路人

無終山 十津川莊粟畑村西南小あり谷出といふ事遠く故

伯船集 大和紀伊のさうひとさかへ坂といふ

社東の吹れおとくく奉加すといふ

はるりもとそかへ坂や八月雨

和田峯 上湯川村の上方小あり

寒那川 十津川村の南小あり 草瀬川小合

去来

三浦坐神社 十津川谷六村 西坐神社 湯尾新宮と称す西

茨精山 湯系村小ありこの形差峨と云ふ紀伊の畷

瀧川 湯系小至十津川入 蘆瀬川 湯系地蔵岳よりかくれ

清納瀑布 十津川莊大坪村 分坐神社 湯系莊中戸の属村川分村

御吉野村等の 瀧尾坐神社 國王宮と称す大川莊

天神祠 二所あり一所は湯系村あり一所は井清ありの氏村あり

伯母子嶺 今湯村の南小あり十津川莊湯系村の畷

大瀧山 湯系村小あり 湯系山 湯系村小あり

草瀬川 湯系村小あり 湯系水波 湯系村小あり

山崎坐神社 湯系村小あり 俗に湯系

寶藏寺 十津川莊五百瀬村小あり俗に湯系

平維盛墓 十津川莊湯系村小あり古老日壽永年中乱か

佐久間信盛墓 十津川莊武藏村光明寺小あり石碑あり 天正四年七月十二日卒

白屋嶽 白屋村上方 高系山 高系村の上方

備後山 北山莊の合村あり紀別界之山頂險峻

出谷川 東山陽川村より流る

西川 東山陽川村より流る 風屋瀧 風を村小あり

小井瀧 東山陽川村小 小系瀧 小系村小あり

備後川 紀別より流る大塚小至

憩息石 東山陽川村茶店の傍小あり俗曰

池峯池 北山莊池峯村の山頂小あり流水藍の如く樹木環繞

池峯坐神祠 比明神と称す北山莊八村の

河津國王神祠 二府林村小あり寺宮と称す境内小神宮あり

林泉寺 北山莊白川村小あり

異像瀧 長敷村小あり深淵清狭くく形勢

水合神祠 小池村小あり北山莊五村

白瀧山寶泉寺 北山莊西野村小あり寺尊親世若くはの合龍の記

興泉寺 永亨九年丁巳二月建立向山車僧と名け興泉寺乃故蹟今

王住山龍川寺 北山莊小池村小あり寺曰南帝皇居の古址之後小當院

神位 康正三主丁丑十二月二日又遺教經

芋瀬莊司宅址 小あり

竹原八布宅 谷原村小あり大塔宮護良親王と

尼妙圓宅 小池村小ありお侍人妙圓大塔宮小

池原川 一名北山川と云東山陽川池原小あり

佐田川 小井の川と云紀別小あり

葛川溪 小池村小あり

安曾川 安曾の川と云今一團界を遠り竹筒村を過り又紀別小入

柳本渡 東山陽川村小あり

上渡下渡 俱小池村小あり

山上春と毎来四月白  
 より九月八日まじく花人物  
 ところの旧毎に家みこし入  
 津原か一十の常安様ち  
 より七上まじく六里あり  
 七月のほろかこ當と乃  
 修驗道のこ伏入奉に  
 岩中に二百八十の  
 岩窟あり猫跡窟  
 聖天窟菊窟坐窟  
 揃福窟あつてハ大  
 あり瑞跡窟ハ源  
 この二町余窟の  
 廣宮人々あり  
 奥に池あり  
 菊窟ハ七乃  
 岩こまじく



菊の紋はか  
 せりま外候  
 驗道の松所  
 うねへん  
 とくまのこ



山上山嶽大和志目吉南六里之勢高峻一之霜雪嚴澗より

頂小深利あり其路嶮岨あり大土小土乃二

踏と今宿の茶店あり又洞の茶店あり

より大鞍掛小鞍掛の二坂鐘懸山西臨

至く魏々く梵閣あり尊藏王権現優婆塞安

又古潼あり佐野郡田莊長福寺天慶六年七月二日云々

金葉  
と後も小衣と人と標を外小乃月乃月乃月乃月

王業  
時ある外の外の外の外の外の外の

二面の巨巖多くく南小あらから涌出山とうらく東北小あらから

嶽小望く僧舎六區あり右野の僧く小安居と又東の一里

くり小小篠とり入至は則行者堂聖寶堂護摩の石壇大黒

石窟あり

小篠のとりとりとりとりとりとり

今とはり小小篠の病小をちつつとりとりとりとりとりとり

又ある一里をくり小脇宿とりあり一名篠の宿とり

又あるの二里をくり小普賢岳とりあり又あるの一里好ゆけを

兜宿とり入祈あり其あるの二里をくり小行者塚とりあり又は

二里八町小至とり御山とりあり又南五里をくりゆけを別

釋迦岳あり

乃者乃者乃者乃者乃者乃者

乃者乃者乃者乃者乃者乃者

乃者乃者乃者乃者乃者乃者

乃者乃者乃者乃者乃者乃者

山家集

大峯の林松とすてまき月が  
かまきよみは

ぬのたふねむる月がなをりまはぢもあはれ松のほしあり

御山と山上獄より東のひ里とありふあり層巒巒嶂とて路

巒嶂と所謂御嶽神仙といふはけやりのものとや又御山より

南のひと十町ゆる大日岳あり又其東一里とありりとも小池宿と

りあり平地宿とありと里とありふあり是より二十町南ふ至る

轉法輪岳といふ又東二里十六町ありを依陀辻の善宿か

とありと足が経て天狗岳小至は

いふありて梅の蔭なりとあると小池小今有月とむんあり

山家集 小池とすてまき月が  
ぬのたふねむる月がなをりまはぢもあはれ松のほしあり

山家集 梅の蔭なりとあると小池小今有月とむんあり

山家集 定まき法とすてまき月がなをりまはぢもあはれ松のほしあり

天狗岳より東のひ一里ゆる地蔵岳あり其東二十七町あり東屋

岳とありりあり足より東南十八町あり千種岳ふ至る一名

仙嶽といふを又笠捨といふとさげく姥捨といふ速とるなり

と名とありとあり又東のひと二十町ふる古屋宿あり其南

一里十四町ふる踏といふ花折宿小至は其東のひと八経尾といふ

又東二十五町ふるゆけと土室岳ふるとあり又西五町ふる

玉置権現といふ

山家集 梅の蔭なりとあると小池小今有月とむんあり

山家集 定まき法とすてまき月がなをりまはぢもあはれ松のほしあり

山家集 分りり久のまき法梅といふとありとありとありとあり

山家集 分りり久のまき法梅といふとありとありとありとあり

山家集 分りり久のまき法梅といふとありとありとありとあり

山家集 分りり久のまき法梅といふとありとありとありとあり

山家集 分りり久のまき法梅といふとありとありとありとあり

山家集 分りり久のまき法梅といふとありとありとありとあり

山家集 分りり久のまき法梅といふとありとありとありとあり





世説曰  
嵩山の北小窟あり晋令々に  
入るる十日をうりみりて室内  
明らきく益のぬし時に  
其と圍むの老翁二人  
あり晋人に一盞の酒藪  
と進む忽蜀中にゆく  
年一うく洛下小ゆる  
又張華とらふをわん  
びく新羅伝録と  
飲らるるあり  
王業かき入  
くろりのと  
龍穴の石籠  
うり采り  
長壽ありと  
我朝の山上嶽の  
山小窟とら



く比ん

山上藏王権現と後優婆塞金峯と小一千日籠りて生身の薩摩公  
 いのり給ひて地藏尊の像地中より涌出するは足優婆塞の沛心  
 叶わぬとありて地藏菩薩と伯耆國大山の飛去のひと其後  
 大勢忿怒の像ありてその沛心とて銘ふとありて臂のひらけ  
 九の沛心とて五指のひらけ沛腰におく人給ひて一睨大いけりて魔  
 障除伏の相ありてお胸のくくはく大地の経緯ありて給  
 つるは時人皇廿九代宣化天皇紀二年小あを優婆塞の沛齡十五女  
 うりうりひふ十五童子涌出あり其八童子のみを小鎮ゆりてり  
 第一檢増童子 阿闍佛岳跡 在旃師窟 第二後世童子 師子音王佛岳跡 在多輪窟  
 第三虚空童子 虚空住佛岳跡 在荏岩屋 第四劍光童子 帝相佛岳跡 在篠窟  
 第五惡除童子 阿比陀佛岳跡 在王末窟 第六香精童子 多麻羅羅跋耨檀佛岳跡 在深山  
 第七慈悲童子 雲自在佛岳跡 在水飲 第八除魔童子 釈迦牟尼佛岳跡 在吹射  
 又七童子は葛城の峯より涌出ありて是より涌出獄といふあり 西卷曼陀羅

それより尊像は錦帳の中小鏡とて其涌出の跡は秘せんて先小  
 優婆塞とて天曆帝村上天皇とてあつて二尊は他王とて二尊は  
 安んじし給ひて惡愛は六十余別小あつて他は是に此は非に  
 賞罰は千世累小わたりて人給ひてお利都々林明  
 槍迹は千七千余座の利生のあつてさうらひ痛むとて毎二  
 亦無との靈驗あり 太平記  
 後優婆塞と大和國葛城上郡芥原里の人ありて高賀氏より  
 舒明天皇六年小出誕し給ひ若年よりひらくまひ佛道に致  
 し沛年二十二女の時あつてたの岩窟小籠り藤衣をたの多か  
 らひとのひらけ孔雀明王の咒を唱く五色のまき小籠り他宮小遊  
 給ひての思ひて水本をかきまをせりて小陸別せ給ひてのひら  
 一とせあつてたの石橋のひんてたは一言主神に咒縛し其面乃  
 影入る龍樹大士とわたりてひらけりて人給ひてまつたわら

紙巻くもおびあらん終ふ文武天皇大寶元年六月七日壽齡  
六十八年一母は小入行の夢を記す云々惜しむ海入る  
後之のまこと定小道昭法師と稱す小あり一財新羅の山中  
してむらぐ虎小逢ふその中小役行者の後の虎ありと詞か  
通ずるとも師鍊和尚と定ふはけりとの代のたかひと人らと  
とり 釋言乃ひ西巻お 小コトノ と 不三の 家 へ 中  
未臨一々くありと人のまをゆると中 中華 め く い せ これ  
仁人 ま か り は と し 水 鏡 小 人 ら り 大 寶 元 年 入 定 より  
今寛政二年小至つて千九十余年小あり  
丈夫 家 の 役 優 婆 塞 と り く ひ た は ひ り り 聖 病 は け り り  
中級 し の 通 後 は 只 荊 棘 の と ら り く り け ら 後 小 醍 醐 乃 聖 寶  
僧止 い く ら の 乾 靈 岳 公 室 く せん や い せ く ま ひ 南 基 の い  
吉野より中つり小本とと一り一洞川より系八十町小せり小當とと  
一之吉野は又逆とくも一は是聖宝寺師のひりたも一節也

釋迦山獄 御山の南五里 一名轉法輪岳と云り一郡内の諸と云秀く最

雄峻 み く 遠 く 眺 は は る 磊 状 基 石 か 布 が ぬ

善鬼里 北山莊十五村の内より 本と當山御入峯乃附け里り止宿

一 の 山 に お か り

屨 山 巖 善 鬼 村 小 あり 遠 く 眺 は は る 屨 か ま る か り

善鬼川 小代の邑小至る西川小入

都藍尼 和別の人あり一當園 じう一吉野との禁小都藍尼と云り一他

女 あり 金 峯 の 茶 合 の 地 に お か り 藏 王 権 現 の 靈 域 と い は る 女 人 か

の ほ ろ ろ 一 わ ね に 我 女 人 か く 仁 徳 が 得 る い く と の や ど ば

あ ん や と く 大 家 若 竹 の 道 後 小 や け 忽 雷 電 霹 靂 と く

通 後 か う か へ 其 所 と く 杖 か 捨 り く 其 杖 枝 を か り

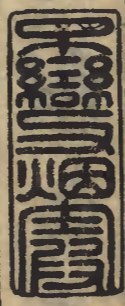
大 本 と う け 又 咒 文 を 吐 く 龍 か よ い 昇 其 龍 小 糸 し 七 飛 ね せ

一 ら く 至 り 龍 も と み え さ 都 藍 尼 つ べ や さ か ぐ

いりりて巖いざななるをいひて又踏ふみぬるをいひて中ちゆうのそとに微塵いじんと  
少龍せうりゆうと池いけ小入せうにりに女にむすめををままるる系けい一いつ其終そのはつる所そのところを知しる



大和名所圖會卷之六 大尾

大和名所圖會後 

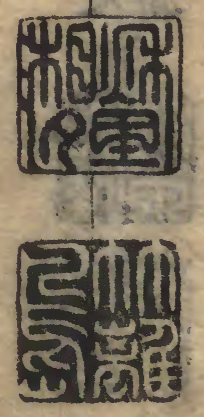
佩蘭清先生責序其文曰山跡國  
其從人皇之肇代鎮都久矣  
美雉之地靈而功名之人傑不寡  
古今云云其地靈其之笠之山祝  
寶祚九五之福護四社之靈后宮  
八子之喜臨乎熾矣其人傑其  
首吉備氏仲誓之輩而往云云無際  
詔豈曰天府之國哉 高宗累系

都而一千五百有餘葉也故名區  
勝蹟頗多無或詠於和歌或咏於  
詩賦亦不可舉而計矣越延寶中  
村氏著和州舊跡幽考又近頃勝  
禹言欵撰大和名勝志而僅之分  
許而沒其予近幸著都名所圖會  
前後之而編倚其圖而以其  
蓉有告於予彼禹言之遺志迺得  
其草稿而撰大和名所圖會七

卷唯憾如得王烈之抱犢山之石  
室之一書不亦求於東也敢非傳之  
文史聊以幸遺命而已

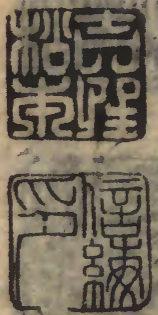
寬政之歲次辛亥夏四月

來安 秋里 舜福 湘夕



畫工 浪花

春朝齋竹原信繁



大和志

元河先生著

全部八冊

大和國名所大繪圖

神社佛閣名所旧法土産名物隣國之  
法亦之りを絵圖よつり一板指全二冊

南都町圖

此圖ハ南都の神社佛閣町小治を以て  
よありりては名所圖會法めぐる便  
目をかきこりて道に換る

大和巡覽記 貝原篤信著

也まのめと道枝折

此二書ハ大和の町名所旧法神社佛閣  
遊覧の便を以て撰みまてりて記す是ハ  
袖中へ大和のめと道枝折を以て  
内記すは道に換る一又此道に換る  
此名所圖會を以てめぐるハ山中此嶮  
に到てハ其所の人を案内者として

寛政三年辛亥五月發行

京師書林

小川多左衛門  
殿 爲 八

浪華書肆

柳原喜兵衛  
高橋平助

